

令和5年度 第2回臨時部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和5年6月15日（木） 8時30分から9時00分まで

開催場所：A301-302会議室

出席者：佐藤市長、高田副市長、原田総務部長、林企画部長、小倉リニア推進部長、牧島リニア駅周辺整備担当参事、橋本市民協働環境部長、田中ゼロカーボンシティ担当参事、林健康福祉部長、高山こども・子育て担当参事、清水産業経済部長、今産業経済部参事、井田建設部長、佐藤建設部参事、岡本危機管理部長、佐々木上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、和泉議会事務局長、秦野教育次長、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局次長、澤柳企画課長

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- ・今年3月の第1回定例会（閉会日）全員協議会において、契約に係る議会未提出案件及び職員の不適切な事務処理等についてなぜなぜ分析で原因を究明し報告した。本件は、庁内を挙げてこの検証をしていた時期に発生していることを踏まえ、極めて深刻に受け止め本日記者会見を行うこととした。
- ・本件の直接的な要因は、報告を怠ったというヒューマンエラーであるが、実際の原因は、対象となる園児がいる時のみ報告をし、報告がなければ対象となる園児がなかったものとみなすという事務処理方法をとったことによるもので、システムエラーである。表面的にはお互いの報告や確認という事務を軽減するために考えたシステムが、結果的に決して人に優しいシステムではなかったということである。人間誰もがうっかりすることはあるのだから、それをお互いにカバーするようなシステムを作っておかなければいけなかった。結果的にお互いにとって優しいシステムを作ることがミスを防いでいくことになる。
- ・お互いミスをすることもあるかもしれないことを前提としつつ、それをどういう仕組みにしたらカバーし合えるのか、結果的に人に優しいシステムかということを改めて皆で考えなければいけない。
- ・改めて職場で仕事の流れが優しいシステムになっているか確認していただきたい。

＜副市長＞

- ・事務処理の仕組みが本当にそれでよいのかを改めてチェックする必要がある。
- ・今回の事案は保育料と児童手当に関する手続きの中で、このような事態が判明してきており、保護者の視点からは一連の流れの中のことが、職員としてはつながっていなかった。
- ・今回のことだけでなく、決算に際しては、根拠も含めてきちっとチェックをすることをみんなで確認をする必要がある。

＜教育長＞

- ・これまでの教員経験の中で、保育園幼稚園の業務が忙しいということは感じていた。今回の事案を自分ごととして考えないといけないと改めて感じた。

2 報告事項

(1) 保育料・副食費の還付漏れについて

◇趣旨

- ・保育料・副食費の還付漏れについて報告する。

◇意見

（市長）

- ・子育て支援課では、新型コロナウイルスの陽性、或いは濃厚接触の園児の数を把握する仕組みにあったのか。
- （子育て支援課長）
- ・園から報告を受けていた。

(市長)

- ・陽性者や濃厚接触者の数を把握していながら、報告がないという状態に違和感はなかったのか。

(子育て支援課長)

- ・そこまで気が回っていなかった。

(市長)

- ・個人の事務のキャパシティが超えた場合に、お互いがカバーし合う仕組みとして、チェックをし合うことは必要。

(危機管理部長)

- ・ダブルチェック体制が必要。この件に限らず複数でチェックする体制を築かなければいけない。改めて見直しをしていただきたい。また、研修を組んでいくことも必要ではないか。

(教育長)

- ・私立園は副食費がないのはなぜか。

(子育て支援課長)

- ・私立園の副食費については、保護者が通園している園へ納めている。私立園から保護者へ副食費の日割り計算をし、還付又は翌月の副食費で精算しているため、各園で対応するシステムとなっており、市が保護者に直接還付することはない。

(産業経済部参事)

- ・私立保育園の副食費については、事案が発生していないから還付するものがないのか。私立保育園でも同じような事案は発生していないのか。

(子育て支援課長)

- ・市の本会計に入っていないため、還付するものはない。
- ・私立保育園でも2園の報告漏れがあった。その内、1園は翌月に精算していた。もう1園も園から保護者へ還付していると認識している。
- ・各私立保育園がきちんと保護者へ還付又は翌月に精算しているかどうかについては、毎年行っている事務監査の中でチェックをしていきたい。

(会計管理者)

- ・公立保育園が多いのは、職員体制に課題があるのではないかと。私立保育園は事務の担当の先生がいるが、現状では公立保育園には事務担当がいらない。

(子育て支援課長)

- ・公立保育園が多いことは問題意識を持っている。今後各園の事務の状況を検証し、事務負担が減るようにICTの導入も考えていきたい。併せて、ダブルチェックができる体制も検証していきたい。

(総務部長)

- ・前回の事案の際にも、他人事ではなく自分の事として捉えて、事務フローやマニュアル点検を行うということを確認したはずだが、時を同じくして今回のような事案が発生していたということは大変残念であり、内部統制が機能していなかったことの現れ。それを管理する者として猛省をするところである。
- ・職員全員が事務の流れを再度チェックして、気を引き締めて執務に当たるように、もう一度確認いただきたい。
- ・お互いにカバーすることが、例えば係長や補佐の皆さんが部下の負担を軽減しようとするあまりに、負担を抱えているのではないかと考えられる。前回の平準化については確認したはずだが、不十分だった。
- ・改めて今回の事案をもう一度各部局に持ち帰り、仕事の流れ、仕事の管理の仕方をチェックしていただきたい。

(議会事務局長)

- ・今後の議会対応については、社会文教委員会が16日に予定されており、その中の協議会案件として、対応させていただく。担当部局から丁寧な説明をお願いしたい。
- ・還付に関わる補正予算について、最終日に上程されると聞いているが、予算決算委員会の全体会ではなく分科会で審査をしたいという意見もある。今後、予算決算委員会の準備会で協議をする。

<協議確認事項>

- ・事案を自分事として、各課において、業務フローの再確認と、会計処理についての複数で迅速に適切に執行する体制の再確認を行うよう徹底すること。

3 その他、連絡事項

4 閉会